

第2次長期総合計画策定に向けた 課題整理・分析

目次

1. はじめに.....	1
課題整理・分析作業について.....	1
2. 個別調査の結果まとめ.....	1
(1) 市民アンケート調査結果.....	1
(2) 高校生未来会議“いとしま”(ワークショップ)の結果.....	4
(3) まちづくり市民委員会(ワークショップ)の結果.....	5
(4) 中学生“いとしま”未来への提言(作文)結果.....	7
(5) 基礎調査結果.....	8
(6) 類似団体との比較.....	11
(7) 地域経済分析システム(RESAS).....	12
(8) 糸島市統計白書.....	15
(9) 経済センサス等.....	19
3. 各種調査結果からの総括.....	20
課題整理・分析結果について.....	21

1. はじめに

課題整理・分析作業について

第2次糸島市長期総合計画策定において、各種調査結果等から糸島市における課題を抽出し、基本目標及び課題克服プロジェクトとの相関関係を見出すことを目的としています。

今回の抽出作業に使用した各種調査結果は下記の内容です。

- 「平成30年度 糸島市 市民満足度調査結果報告書」 (市民意向の把握)
- 「糸島市まちづくり市民委員会報告書」 (市民・高校生からの課題及び提案内容の把握)
- 「中学生“いとしま”未来への提言(作文)結果」 (中学生の意向の把握)
- 「基礎調査分析」 (統計データ等からの現状把握)
- 「糸島市統計白書等」 (平成29年版)
- その他 (社会潮流等をふまえた現状把握)

2. 個別調査の結果まとめ

(1) 市民アンケート調査結果

市民意向の傾向について

調査の概要は下記の通りです。

- 【調査対象】 18歳以上の市民2,000人
- 【回収結果】 有効回収数：1,017人(回収率：50.9%)

糸島市での暮らし全般についての総合満足度

10点満点中6.73点

【問36】 加重平均による算出(「不明・無回答」は、有効回答数から除外して算出)

総合満足度は、全体として、平均6.73点で、前回(H29年度)調査の6.85点と比べて0.12ポイント減少しています。

また、参考までに福岡県の幸福実感度6.57点と比較すると、0.16ポイント高い結果となった。

参考:平成30年度福岡県県民意識調査

調査項目	評価点	備考
県民の幸福実感	6.57点	どの程度幸せかを0～10点で評価 「とても幸せを」10点、「とても不幸」を0点

糸島市での暮らし全般についての総合満足度について、総合満足度は、全体として、平均6.73点で、前回(H29年度)調査の6.85点と比べて0.12ポイント減少していますが、福岡県の幸福実感度6.57点と比較すると、0.16ポイント高い結果となっています。地域別では、志摩地域の平均6.85点が最も高く、次いで前原地域の6.72点、二丈地域の6.55点となっています。前原地域と二丈地域は、全体平均を下回っています。

糸島市が好きか、住みやすいか、住み続けたいか

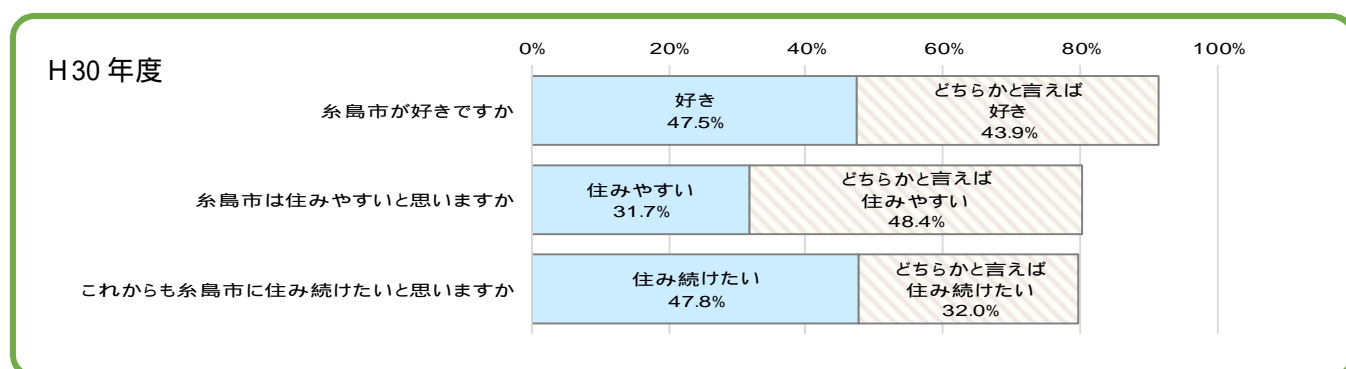
区分	H30		H29		H26		H24	
		「好き」との差		「好き」との差		「好き」との差		「好き」との差
好き ¹	91.4%	-	84.0%	-	80.9%	-	83.9%	-
住みやすい ²	80.1%	11.3ポイント	77.5%	6.5ポイント	70.2%	10.7ポイント	76.4%	7.5ポイント
住み続けたい ^{3、4}	79.8%	11.6ポイント	77.9%	6.1ポイント	68.0%	12.9ポイント	70.7%	13.2ポイント

1 「好き」「どちらかと言えば好き」の計

2 「住みやすい」「どちらかと言えば住みやすい」の計

3 「住み続けたい」「どちらかと言えば住み続けたい」の計

4 H26年度とH24年度の「住み続けたい」は、「今住んでいる場所に住み続けたい」「糸島市内の別の場所に引っ越したい」の計



糸島市の愛着度は9割を超えており、(『好き』:「好き」+「どちらかと言えば好き」の合計91.4%)いるほか、糸島市の住みやすさについても8割が『住みやすい』と感じていることがうかがえます。特に「18～29歳」「30～39歳」「40～49歳」の子育て世代で割合が多くなっています。

分野別の主な傾向として、「家庭や地域が手を差し伸べ、支え合っている」と思う割合が概ね5割(『そう思う』:「そう思う」+「ややそう思う」の合計47.2%)となっているほか、安心して子どもを生育てられる環境が整っていると思う割合が概ね4割となっていることから、「子どもを育む環境」や「人と人とのつながり、助け合う環境」について、概ね満足していることがうかがえます。

一方、市街地や公園などの暮らしやすく快適な生活環境の整備や市内の移動、交通安全施設の整備については、『そう思わない』(「そう思わない」+「あまりそう思わない」の合計)の割合が『そう思う』割合を上回っており、「快適で住みよい環境」や「安全・安心な環境」を求めていることがうかがえます。また、「人と人とのつながり、助け合う環境」についても、「地域の安全は地域で守る」活動の参加傾向においては、特に「18～29歳」「30～39歳」「40～49歳」の子育て世代の不参加の割合が多くなっています。

その他の傾向として、日ごろから、地産地消を意識し、糸島産の農水産物を積極的に購入している割合は『そう思う』(74.3%)7割を超えており、年齢があがるにつれて割合が高くなっています。

これらのことから、概ね糸島市への愛着や住みやすさなどについて、満足度が高い傾向にある一方、今後、「快適で住みよい環境」や「安全・安心な環境」について潜在的なニーズがある傾向が

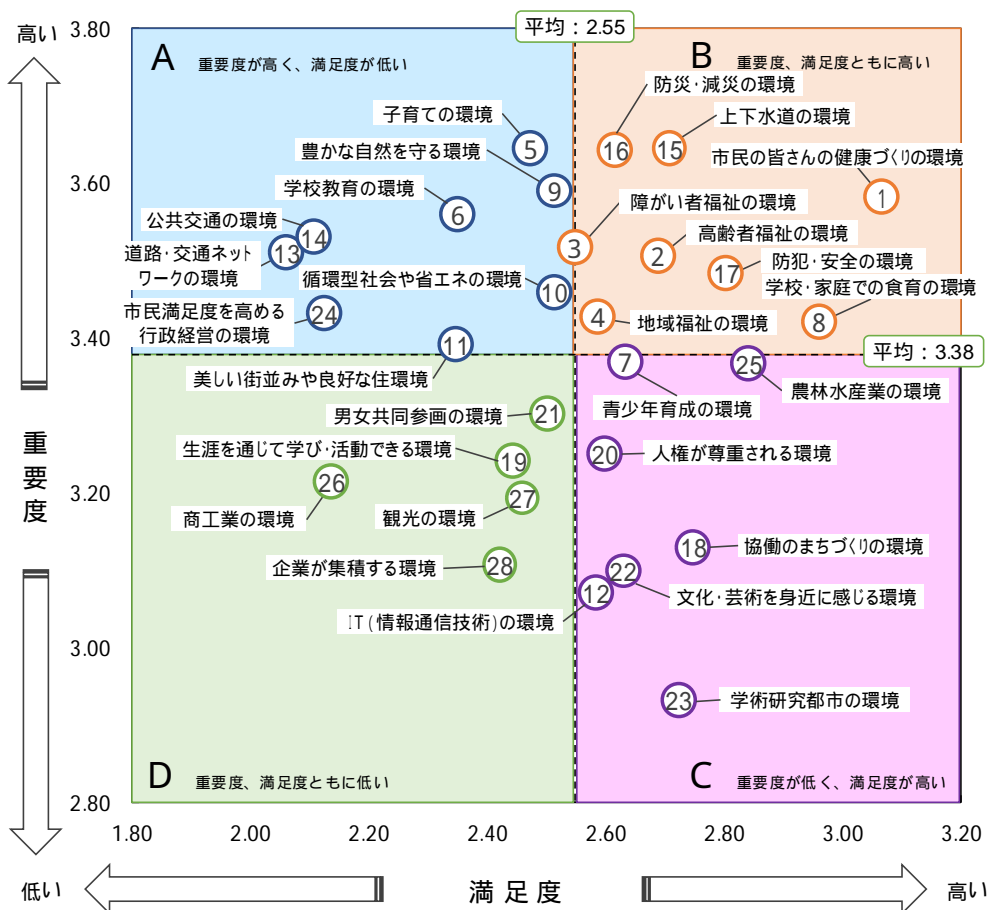
あることから、現在の環境のさらなる充実に取り組んでいく必要があります。

最後に、糸島市を一層魅力的なまちにするために、今後どの分野に力を入れるのが良いと思うかについて、「子育て・教育」(20.5%)が最も高く、次いで「観光・レクリエーション」(19.6%)、「農林水産業」(19.1%)となっています。

満足度・重要度散布図

糸島市での生活に関する環境の重要度と満足度については、「子育て」や「教育」に関する環境（「子どもを育む環境」や「人と人とのつながり、助け合う環境」）について、「交通インフラ」に関する環境、「自然環境」や「住環境」（「快適で住みよい環境」や「安全・安心な環境」）において、重要度が高く満足度が低い結果となっています。

満足度・重要度散布図



上の図は、各項目の満足度および重要度について、回答者全員の平均値の分布を示したものです。市の取り組み 28 項目について回答者の満足度（「満足」回答数×4点、「やや満足」×3点、「やや不満」×2点、「不満」×1点）と重要度（「重要」回答数×4点、「やや重要」×3点、「そこまで重要でない」×2点、「重要でない」×1点）を得点化し、回答者全員の平均値を項目ごとに算出しました。

(2) 高校生未来会議“いとしま”(ワークショップ)の結果

調査の概要は下記の通りです。

【参加者】 糸島市の高校生

【開催日】 第1回 平成30年8月17日 第2回 平成30年8月21日

「糸島市の“いいところ”(強み・魅力)」では、自然環境や観光分野に関する意見が多くみられました。また、“いいところ”では、第一次産業が盛んという意見がありますが、“もっとよくしたいところ”では、農業の後継者がいないという意見があります。その他、交通に関しては、中心部以外の交通の便が悪いという意見がみられました。

第1回(主な意見)

【糸島市の“いいところ”(強み・魅力)】

自然が豊か(海・山)
外国人の観光客が多い
第一次産業が盛ん
地域の人や近所の人とのつながりが深い
インスタ映えスポットがある
伝統行事がある
食べ物が美味しい
観光スポットが多い
人々があたたかい

【糸島市の“もっとよくしたいところ”(弱み・改善点)】

移動手段が少ない(バスが少ない。電車の本数が少ない。)
遊ぶ場所が少ない(映画館、公園、お店など)
交通量が少ないところや住民が少ないところは街灯が少ない
高齢者の買い物が不便
治安をもっと良くして、安心して遊べる環境を作る
働ける場所が少ない
農業の後継者がいない

第2回(主な意見)

【強みを生かした取り組み】

海や山、さまざまな自然を生かしたツアーを行う
山や風景がキレイな場所に展望所をつくったり、マリンスポーツが体験できる場所をつくり、自然を体感できる観光地とする
外国人の観光客が増えているため、宿泊施設をつくり、より深く、長く糸島を体験、体感してもらう
SNS(ツイッター、インスタ)を利用して、糸島の観光地や特産品を紹介する
インスタ映えで若い世代を呼びこむ
農業体験を行い、農業に関心を持ってもらう

【弱みを克服する取り組み】

働き口が少ないため、自然を生かした企業を増やす
コミュニティバスがあまり浸透していないため、もっと利用してもらえるようにする
交通の便が悪いため、糸島を循環するバスを増やして、バス停を増やせば、車が無くても気軽に移動できるようになると思う
耕作放棄地を上手く活用して減らす為、新しく農業を営もうと考えている生産者等に対して講習会を開き、魅力を発信する
若年層の人口を増やすため、公園や保育園等を整備し、子育てのしやすい環境づくりを行う
空き家や放棄されている土地があるため、使われていない土地や空き家を宿泊施設等に活用する
交通の便が悪かったり、道が狭いところがあるため、中心部以外の道路の整備が必要

(3) まちづくり市民委員会（ワークショップ）の結果

調査の概要は下記の通りです。

【参加者】 糸島市民

【開催日】 第1回 平成30年10月13日 第3回 平成30年10月27日

第2回 平成30年10月20日

ワークショップにおいて多く出された意見は糸島市にある「地域の資源」を活用して、糸島の未来を創っていかうというものが多く出されていました。糸島のブランドを強化するには、地域の資源をブラッシュアップすることが必要となりますが、ワークショップで出された意見では、「農業＝食べ物」を通して糸島の魅力をいかに磨いて、他の地域に発信していくのかという「ブランド強化」について興味・関心が高いことがうかがえます。

子育ての課題については、みんなが集まる場所が必要という意見が出されています。一見ハード面を求められているように思われますが、多世代間の交流やさまざまな人たちが交流する空間をデザインする志向が求められていることから、「人と人とのつながり、助け合う環境」についてニーズがあることがうかがえます。

コミュニティの課題については、技術をうまく活用できる人たちを増やし、地域とのつながりをつくっていくことや、仕事をつくっていくべきという方向性がだされました。

地域交通の課題については、交通手段をもたない方々の立場からの提案がなされていました。防災・減災については、いかに個々人の意識を高めるか、原発の問題が議論されていました。

第1回（主な意見）

【糸島市の“いいところ”（強み・魅力）】

自然が豊か（海・山）
海も山も美しく適切に田舎であるところ
災害が少ない
人があたたかい（人と人のがながりが強い）
新鮮な食材が多い（肉・野菜・魚）
福岡市へのアクセスが良い（JR・バス・都市高速）
交通の利便性が高い（JR・バイパス）
糸島ブランドができつつある

【糸島市の“もっとよくしたいところ”（弱み・改善点）】

沿線はずれると交通の便が大変悪い
前原の中心部はよいが、山側・海側の交通の問題
宿泊施設が少ないので観光客が素戾りする
もともといた地元の人との付き合いが難しいところがある
文化財のPRをもっと！！歴史的な価値をもっともっとアピールを！（神楽・邪馬台国・文化財 etc）
スポーツ施設や福祉施設の充実
働き手が福岡市へ流出
企業誘致

第2回（主な意見）

【強みを生かした取り組み】

糸農を含む学生との交流、糸農生との共同化、糸農の実績を活かした高校生レストラン
農業、林業、漁業、体験型のイベント（宿泊型）
おしゃれなお店にして、SNSで人をよびこむ
全ての糸島ブランドに統一したシンボルマークを！
観光マップの作成（糸島観光モデルコース 1ヶ所に寄って帰るのではなく、1日周れるような...）
若者の起業支援

【弱みを克服する取り組み】

移送サービスやコミュニティバスの充実
観光地以外でも必要な道路整備（特に歩者分離）を実施する
人材育成、「糸島でお金が巡る」しかけ
IT企業の誘致やベンチャー・ビジネス（九大等の潜在力活用）の起業で企業レベルの向上を図る。
介護保険や障害者福祉事業の経営が厳しいので安定した事業になる様にしてほしい。人材不足も
あり地域の母子家庭は就労が大変。就労の場作りにも活用してほしい

第3回（5つの取組の方向性）

第1回・第2回で話し合った内容を踏まえ、「糸島ブランドの強化」「子育て・教育環境の充実」
「コミュニティづくり」「地域内交通」「防災・減災」の5つの取組の方向性が示されました。

“糸島ブランド”強化プロジェクト

一次産品を生産するだけでなく、産品やその加工品をじっくり見てもらう観光の目的地となる
農業・漁業（糸島のカキで作るオイスターソース）
農家宿泊、農業体験（アグリツーリズム）

地域ぐるみで取り組む子育て・教育環境プロジェクト

公民館が集いの場となるような取り組み（多世代）・子育てをしている親などの相談窓口

安心して暮らせるコミュニティづくりプロジェクト

昔ながらのコミュニティと新しい目的を持ったコミュニティがチームを組み、校区・行政区の
行事を企画する

みんなで支え合う地域内交通プロジェクト

自転車事業・レンタル観光との連携
組織化された地域運行バス事業を打ち立てる

災害に負けない防災・減災プロジェクト

原発の避難訓練 避難訓練の充実 要支援者の避難訓練

(4) 中学生“いとしま”未来への提言(作文)結果

【テーマ】「私が考えるいとしまの未来」 【応募対象】中学2・3年生

【作文作成者数】6中学校：856人 【作品選出数】17作品

作文の主な内容

【こうあってほしい糸島】

大きな病院をつくることで、人が集まり、大災害にも対応でき、自然の中で療養できる。大人になっても安心して住み続けられる糸島を創る。

引越してきてまだ7年で、糸島のことは、自然や食べ物など、簡単なことしか分からない。私のような人も多いと思う。糸島を知り、愛される糸島にするため、中学生のころから糸島を学び、発信する。

「障害はその人にあるのではない、環境にあるのだ。」と聞いた。「バリアフリー社会」を実現し、糸島に住む全ての人が暮らしやすいまちになってほしい。

移住する人が増えて、人の繋がりが濃くなったり、商店街が活性化したりして、賑やかなまちを創る。

まちづくりは、そこに住む人の想いや声やアイデアで始まる。大人も子どもも、みんなの声がまちづくりに反映されたら、政治がもっと楽しくなると思う。

未来は情報化が進む糸島。農業をロボットが手伝ったり、高齢者を支えるロボットなど、糸島が困っている問題を最先端技術を使えばいいと思う。

市民が子育てに関わる場を設ける。子どもとお年寄りが触れ合う場をつくり、子ども達がコミュニケーションを学ぶことができれば、そこに行かせたい親も増え、町全体が賑わってくる。

【自然と共存する糸島】

豊かな自然を生かして、使われていない農地を「レンタル農地」として貸出し、収入を市民のために使う。

情報を世界規模で発信できるようになった。高層ビルなどではなく、糸島の豊かな自然を武器に、情報を発信して大都会と闘っていく。

ショッピングモールなどを造れば人は集まるが、自然が壊れ糸島の良さが消えてしまう。糸島しかできない自然と都市の融合により誇れる糸島を創る。

スギやヒノキを間伐して、木材を供給していく仕組みをつくることで、林業を営むことが可能になる。

公園を造り、特殊な遊具を設置する。遊具と充電器が繋がり運動することで発電する。その電気を街頭に使う。子ども達が自然に触れ合う機会が増え、電気代も減少し、一石二鳥。

【いろんな人と交流できる糸島】

観光客は多いが、ホテルが少ない日帰りになっている。エアコンが付いた小中学校を活用して、夏休みなど、小中学校に泊ってもらう「いとしま学泊」を行う。

自然を守るボランティアや農業・漁業体験を行ったり、お祭りなどのイベントを増やして、地域の人と観光客が繋がるまちを創り、多くの人に糸島に来てもらう。

糸島には地元食材を大事にし、消費する食文化がある。美味しい食材を巧みに利用し、市外の人や外国人観光客との繋がりを深め、活性化を図っていく。

子どもからお年寄りまで集えるカフェをつくり、1人での高齢者が多くの人と交流できるようにする。

飲食店などのメニューに外国語表記を行うなど、多くの外国人に来てもらい、観光地として発展する。

外国人が増え、会話をする機会も増えると思う。英語で会話し、多くの人がコミュニケーションを取り合えるグローバルな社会になる。

(5) 基礎調査結果 (資料「糸島市総合計画基礎調査報告書」参照)

人口・世帯

本市において、総人口は平成 22 年まで増加していましたが、平成 27 年では減少に転じ 96,475 人となっています。

生産年齢人口や年少人口は減少している一方、老年人口は増加しています。

自然動態については、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続き、平成 30 年は 290 人の自然減となっています。

社会動態については、概ね転出より転入が多い社会増の状態となっており、年齢別でみた場合、就職などに伴う転出によるものと推察される 20～29 歳の転出超過が他の年代に比べ顕著ですが、30 歳以降になると、転入が増えています。

世帯数については、平成 22 年から平成 27 年までの 5 年間で 991 世帯増加し、34,664 世帯となっています。

家族類型別の世帯の状況をみると、「夫婦と子供から成る世帯」が最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」となっています。

高齢化は確実に進んでおり、誰もが安心して生涯を過ごせる地域社会の条件を整えていくことが必要です。

若者の転出超過を抑制し、女性の 20～39 歳、いわゆる再生産年齢の中心となる世代の転入を増進させることが、人口減少に歯止めをかけるうえで重要になってくると考えられます。

家族や家庭のあり方が変化する少子高齢化社会においては、ライフステージに応じて生じるこれらの様々な不安を社会全体の課題と認識し、支援や解決を図ることが求められます。

今後、高齢化等の影響で支援を必要とする人の増加も見込まれます。そのため、質の高い保健・医療・福祉サービスの提供など、一人ひとりの暮らしの安心、生活の質の向上を目指したきめ細かいサービスの提供に向けて、地域コミュニティや NPO、民間事業者などの多様な担い手とともに、取り組んでいくことが重要です。

長期的に予測される人口減少を抑制するため、若い世代をメインターゲットとする転入促進並びに子どもを産み育てやすい環境整備（イメージの定着・プロモーション）といった定住人口の確保（拡大）を図っていくことが求められます。

産業

本市の総就業人口は、年々減少傾向にあり、平成 27 年には 45,171 人と、平成 17 年と比べ 1,131 人減少しています。

平成 27 年の年齢階級別産業人口からは、第 1 次産業である農業、林業、漁業の 60 歳以上の高齢者が占める割合がおよそ 3 分の 2 と極端に大きく、他の業種と比較して高齢化が進んでいます。

不動産業の総生産額が約 456 億円と突出しており、本市にとって重要性の高いことがわかります。

本市の農家数は、平成 12 年には 2,870 戸あったものが平成 27 年には 2,145 戸と、15 年間で 725 戸が減少し、平成 12 年の約 7 割となっています。

観光客総数の推移では、平成 24 年から平成 27 年にかけて一貫して増加しています。

第 1 次産業の高齢化や農家数の減少などに歯止めをかけるため、農業経営者の支援や新規就農者育成など、農業の担い手育成を図る施策をより一層推進する必要があります。

豊かな自然や歴史的観光資源を活用し、糸島市を訪れる観光客を誘致するだけでなく、観光客が市内を回遊し、市内の消費を促すようなより効果的な施策を展開することが重要です。

これからのまちづくりにおいては、内部（定住者）の視点からの魅力（暮らしやすさなど）だけではなく、外部（観光客・交流人口から他市町村定住者まで）の視点からの魅力（行ってみたいと感じさせる観光スポット、集客装置など）についても創出を図り、それを広く PR していくことが重要です。

本市における様々な魅力（その素材）をひとつでも多く発見・創出・発信し続けることによって、市内各地域・コミュニティのらしさ・アイデンティティを確立すること、糸島市のもつ多様性・創造性・独自性を拡大・強化していくことが重要です。

生活環境、財政状況

土地利用率の状況では、「山林」の割合が最も高く、次いで「田」の割合が高くなっています。

平成 28 年現在、「病院」が 8 箇所、「一般診療所」が 83 箇所、「病院の病床数」が 960 床、「一般診療所の病床数」が 157 床、「医師数」は 154 人となっています。

歯科については、「歯科診療所数」が 44 箇所、「歯科医師数」が 68 人となっています。

要介護（要支援）認定者数の推移では、合計については、平成 24 年度から平成 28 年度にかけて一貫して増加しています。

障害者手帳所持者数の推移では、合計については、平成 26 年度から微増傾向で推移しています。

小学校の状況では、「児童数」は平成 25 年から平成 29 年まで概ね横ばいで推移しています。「教員数」と「学級数」については微増傾向で推移しています。

中学校の状況では、「生徒数」は平成 25 年以降、減少傾向にあります。「教員数」と「学級数」については、ほぼ横ばいで推移しています。

図書館の状況を見ると、「利用者数」は平成 27 年まで減少傾向となっていました。平成 28 年では増加しています。「貸出冊数」についても、平成 28 年度で増加がみられます。

県内の市町別財政指数の状況では、県内経常収支比率は県内 11 位、県内実質収支は県内 6 位、県内実質公債費率は県内 21 位となっています。

高齢者や障がいのある人にとっても住みやすい住宅の維持管理を行い、市民の住環境の向上を図る必要があります。

医療体制のさらなる充実を図りつつ、市民一人ひとりの健康づくりや介護予防を進めていくことが、超高齢社会の観点からも極めて重要になってきます。

地域それぞれの状況を踏まえ、これからの時代のコミュニティ創出を図っていくことは、高齢者施策をはじめとする福祉分野における地域包括ケアという地域のあり方へのアプローチとしても、今後ますます重要になってきます。

保護者や子どもたちの教育的ニーズは多様化してきており、よりきめ細かな対応が必要となっています。

福祉や生活保護等にかかる費用である扶助費は、今後も、高齢化や支援が必要な人の増加が見込まれるため、より一層財政力の強化を図る必要があります。

財政の硬直化が懸念されるなか、今後、扶助費等の義務的経費及び繰出金等の増加に加え、公共施設の維持補修・改築費の増加等により、硬直化がさらに進行することが予測されるため、今後の社会状況に対応した新規政策を実施しやすくするよう、さらなる財政健全化が必要です。

地方交付税が減少していくなかで、選択と集中によるメリハリのある事業の推進が必要です。

(6) 類似団体との比較

人口指標

昼間人口比、核家族世帯比の数値から考えられるのは、比較的若い世帯の核家族が多く、それらの世帯は福岡市に通勤していると考えられます。そのため、地域コミュニティへ参画する機会が少なくなっていることがうかがえます。

産業・労働指標

完全失業率が比較的高くなっています。失業は自殺リスクを高める要因となるので、個別計画と連携した対策が必要です。

生活環境指標

教員一人当たりの小学校児童数、中学校生徒数の数値が比較的低くなっています。子どもの人口が要因と考えられますが、教育ニーズは移住を選択する際に大きな影響があることから、対応が必要となっています。

総括表							
	項目	数字	類団平均	偏差値	評価 (5段階)	順位	
人口指標	年少人口比(%)	13.6	12.4	56.6	4	12位	
	生産年齢人口比(%)	59.2	57.2	55.5	4	16位	
	老年人口比(%)	26.8	30.0	43.6	4	15位	
	昼間人口比	81.20	95.7	28.1	1	66位	
	1世帯あたりの平均人員(人)	2.78	2.6	56.6	4	21位	
	核家族世帯比(%)	64.5	56.3	65.8	1	65位	
	高齢単身世帯比(%)	8.8	11.6	39.9	4	11位	
	人口指標平均					3.14	
産業・労働指標	就業率(%)	54.8	55.0	49.2	3	39位	
	完全失業率(%)	4.9	4.3	56.9	2	54位	
	第1次産業就業者数比(%)	8.6	10.1	47.0	3	47位	
	第2次産業就業者数比(%)	17.4	24.2	37.5	2	60位	
	第3次産業就業者数比(%)	70.0	62.1	65.0	4	7位	
	農業産出額(総額・千万円)	1,682	1,363	53.1	3	23位	
	製造品出荷額等(総額・百万円)	43,446	128,146	42.1	2	55位	
	製造業従事者数(人)	2,430	4,472	42.0	2	56位	
	年間商品販売額(総額・百万円)	84,836	116,044	45.0	2	49位	
	産業・労働指標平均					2.56	
	財務指標	財政力指数	0.54	0.51	51.6	3	26位
経常収支比率		0.86	0.9	47.3	3	6位	
ラスパイレス指数		100.3	98.2	58.1	4	16位	
実質公債費比率		0.06	0.08	44.5	4	20位	
将来負担比率		0.17	0.6	40.9	4	8位	
財務指標平均					3.60		
生活環境指標	出生率(1,000人当り)	7.2	7.0	50.9	3	24位	
	離婚率(1,000人当り)	3.6	4.2	44.3	2	49位	
	小学校児童数(教員1人あたり)	15.7	13.3	59.2	2	58位	
	中学校生徒数(教員1人あたり)	13.8	11.7	60.5	2	58位	
	医師の数(1,000人当り-人)	1.6	1.8	46.5	3	40位	
	病院と診療所の数(1,000人あたり-箇所)	0.9	0.8	56.0	4	22位	
	ごみ排出量(トン)(1人あたり)	340.8	339.8	50.2	3	30位	
	ごみのリサイクル率(%)	23.4	18.3	58.4	4	10位	
生活環境指標平均					2.88		
総指標平均					3.04		

【類似団体、使用データについて】

- 使用したデータは、平成 28 年度版「統計でみる市町村のすがた」。
- 類似団体については、平成 27 年度の分類に従っている。
- 故に、現在の糸島市の類似団体の分類は - 1 であるが、 - 1 としている。
- 上記分類において、同グループの数は 69 団体となっている。
- なお、「農業産出額」については、リーサスのデータを用いた。

(7) 地域経済分析システム (RESAS)

地域経済循環率は、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示しています。糸島市では、63.9%と福岡市112.5%、みやま市76.5%、八女市83.8%の3市と比較すると、他地域から流入する所得に対する依存度が高いことがうかがえます。

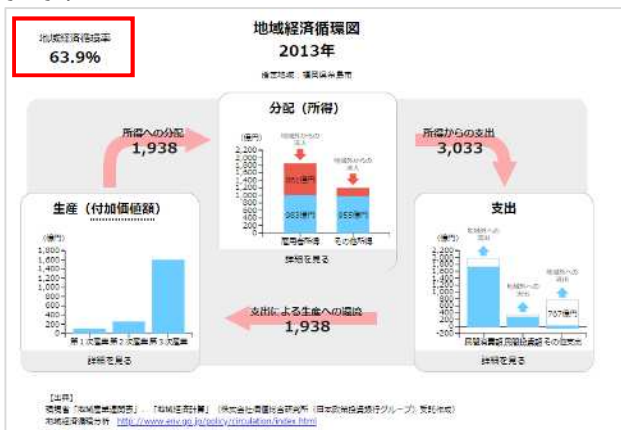
○地域外に所得が流出していることから、地域経済循環率を高め、お金の流出を防ぎ、自立を目指し、持続可能な自治体として稼ぐ力を高める必要があります。

付加価値額は、地域で所得を稼いでいる産業となっており、第1次産業でみると、糸島市では225万円となっており、福岡市、八女市の2市と比較すると高くなっています。

支出流出率は、地域内に支出された金額に対する地域外から流入・地域外に流出した金額の割合ですが、糸島市では、マイナスの値となっているため、地域外への流出が高くなっています。

【地域経済循環図】

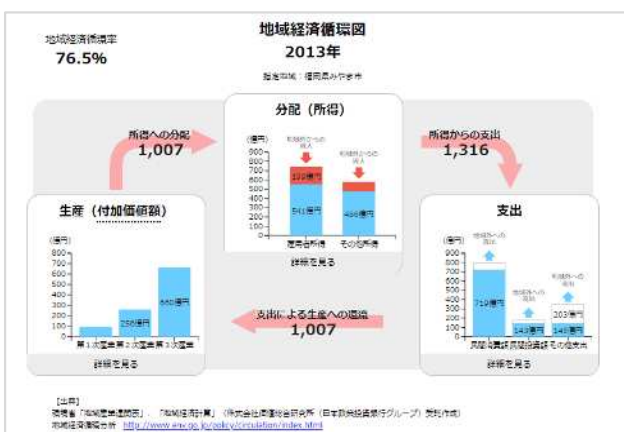
糸島市



福岡市



みやま市



八女市



資料：地域経済分析システム (RESAS)

【付加価値額】

系島市

付加価値額（一人当たり） 2013年			
指定地域：福岡県系島市			
	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額 (一人当たり)	225万円	457万円	753万円
付加価値額 (一人当たり) 順位	742位	1,553位	369位

福岡市

付加価値額（一人当たり） 2013年			
指定地域：福岡県福岡市			
	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額 (一人当たり)	172万円	588万円	840万円
付加価値額 (一人当たり) 順位	1,113位	1,251位	158位

みやま市

付加価値額（一人当たり） 2013年			
指定地域：福岡県みやま市			
	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額 (一人当たり)	568万円	835万円	766万円
付加価値額 (一人当たり) 順位	43位	669位	327位

八女市

付加価値額（一人当たり） 2013年			
指定地域：福岡県八女市			
	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額 (一人当たり)	132万円	602万円	527万円
付加価値額 (一人当たり) 順位	1,377位	1,196位	1,539位

【支出流出率】

系島市

支出流出率 2013年			
指定地域：福岡県系島市			
	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出率	-12.3%	-24.7%	-107.0%
支出流出率 順位	1,147位	1,117位	1,439位

福岡市

支出流出率 2013年			
指定地域：福岡県福岡市			
	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出率	10.4%	0.6%	23.0%
支出流出率 順位	496位	409位	236位

みやま市

支出流出率 2013年			
指定地域：福岡県みやま市			
	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出率	-9.1%	-18.9%	-58.4%
支出流出率 順位	1,056位	906位	713位

八女市

支出流出率 2013年			
指定地域：福岡県八女市			
	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出率	17.1%	-27.8%	-66.2%
支出流出率 順位	320位	1,218位	835位

資料：地域経済分析システム（RESAS）

【付加価値の産業別割合】



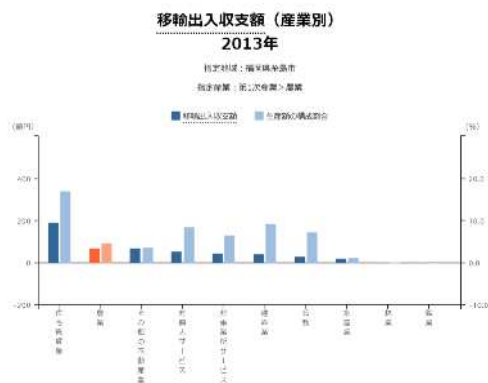
資料：地域経済分析システム（RESAS）

住宅賃貸業、公務、対個人サービス、農業がプラスとなっています。

農業や飲食業、宿泊業等の対個人サービスが域外からの稼ぎとなっています。

公共サービス、小売業等がマイナスとなっています。小売業がマイナスであることと、民間消費が域外に流出していることは、関係していると思われます。教育、医療・福祉等の公共サービスがマイナスとなっているのは、地域の変化に産業がついていけないと考えられます。

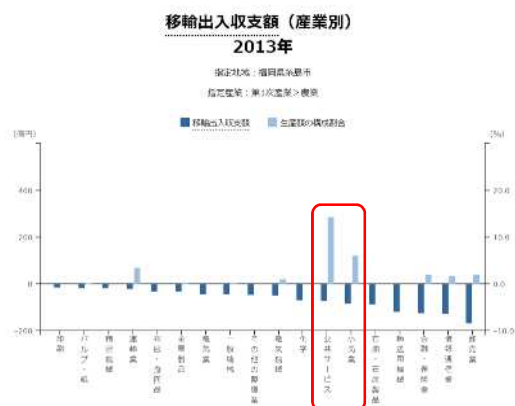
【産業別移輸出入収支額（プラス）】



資料：地域経済分析システム（RESAS）

農業、対個人サービス、水産業といった観光に関連する産業がプラス収支となっており、域外からお金を稼ぐ可能性を有しています。

【産業別移輸出入収支額（マイナス）】



資料：地域経済分析システム（RESAS）

生産額の構成割合の比較的高い公共サービス、小売業等において、収支がマイナスとなっています。これら以外の産業は、福岡市に依存せざるを得ないが、公共サービス、小売業これらの産業については域内で育成することは可能だと考えられます。

【方向性】

稼ぐ力を高め、お金の流出を防ぐためには、下記の視点が重要です。

農業振興、観光産業（飲食業、宿泊業等）振興による外貨の獲得能力の向上

公共サービス（教育、医療・福祉、研究）に関する企業育成による流出の防止、小売業育成による域内消費の推進。

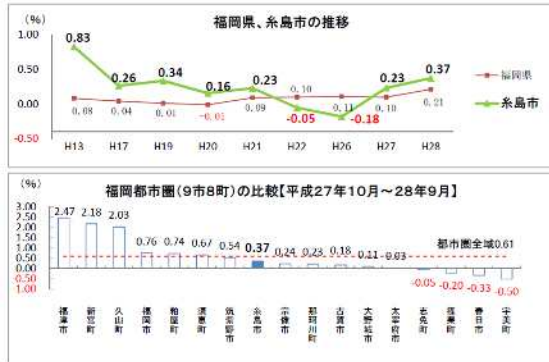
(8) 糸島市統計白書

平成 29 年度版糸島市統計白書より、糸島市の強みと弱みをまとめています。

【人口・世帯、労働力】の視点 少子高齢化が進んでおり、従属人口指数が高いことから、生産年齢人口が少ないが、労働力比率が高いことから高齢者や女性の働く人口が多い。

糸島市の強み

社会増加率が 17 市町中 8 番目に高い



労働力比率が 17 市町中 8 番目に高く、高齢者や女性の働く人口が多い

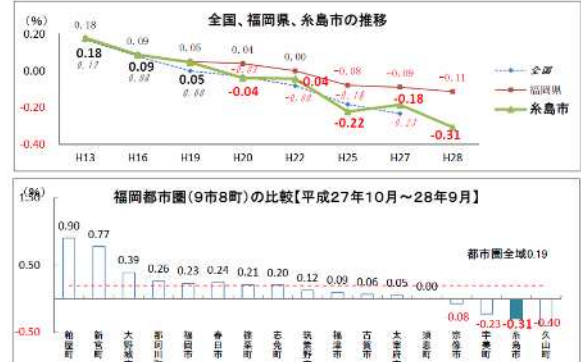


0歳~2歳の子を持つ夫婦のいる一般世帯のうち妻の就業割合が 17 市町中最も高い



糸島市の弱み

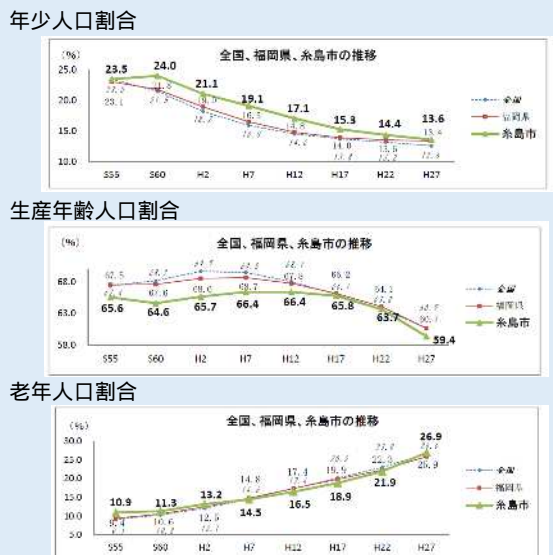
自然増加率、17 市町中 2 番目に低い



従属人口指数が 17 市町中 5 番目に高く、生産年齢人口が少ない



年少人口割合、生産年齢人口割合が低く、老年人口割合が高い



【産業】の視点

認定農業者の割合、農業産出額が高く、第1産業が充実しているものの、製造品出荷額、年間商品販売額が低いことから、製造品の出荷や商品の販売が弱い。観光入込客が多いことから、市内の消費を促す農業体験や糸島の資源を活用した取組・商品開発などが必要。

糸島の強み

認定農業者の割合（販売農家に占める割合）が17市町中最も高い



農業産出額（農業就業人口一人当たり）が17市町中最も多い



観光入込客が17市町中4番目に多い



糸島の弱み

製造品出荷額等（従業者一人当たり）が17市町中5番目に少ない



年間商品販売額（従業者一人当たり）が17市町中2番目に少ない

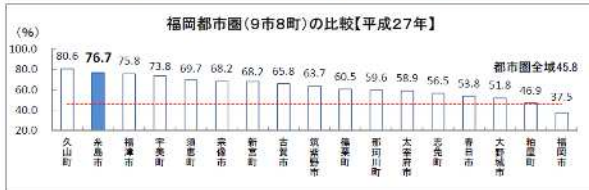
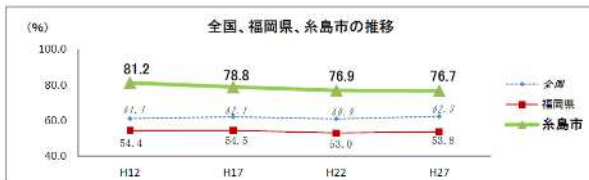


【生活環境】の視点より

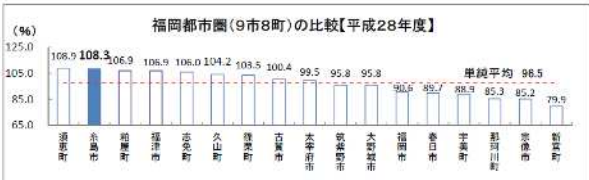
持ち家率が高いことから糸島市に住みやすい環境であることが伺える。一方、空き家率が多いことから人口の増減が関係していることが考えられる。また、保育所利用率が高いことから、若い夫婦の共働き世帯が多いことが考えられ、都市公園等面積が少ないため、子育て世代にとっての公園の整備や、污水处理人口普及が低いなど、安全で安心して快適に暮らせる生活環境の整備が必要。

糸島市の強み

持ち家率が17市町中2番目に高い

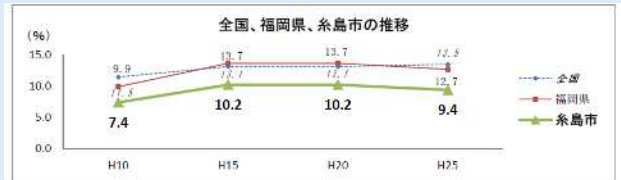


保育所利用率が17市町中2番目に高い

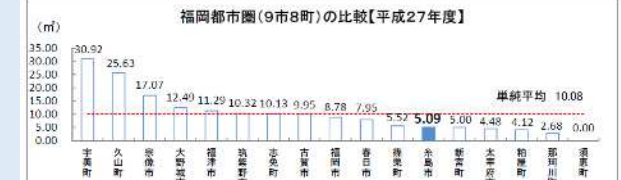


糸島市の弱み

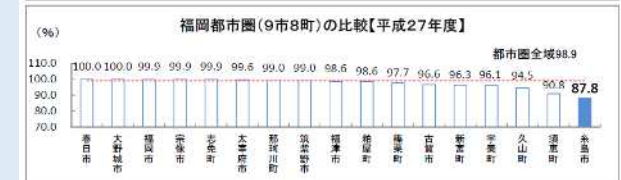
空き家率が16市町中8番目に高い



都市公園等面積(都市計画区域人口一人当たり)が17市町中6番目に少ない



污水处理人口普及が17市町中最も低い



【財政状況】の視点より

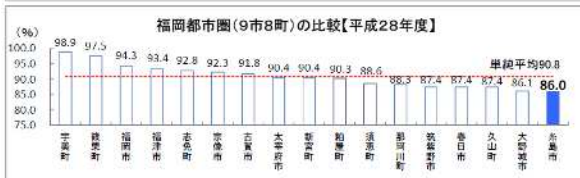
市内で就業している人の割合が平成22年度から増加し、17市町の中でも高く、働きやすい環境であることが伺える。一方、市民所得、市内総生産額が少ないことから、市内の労働生産性が低くなっている。経常収支比率が低い一方、財政力指数は全国、福岡県を上回るものの、17市町の中では低い値となっている。

糸島市の強み

市内で就業している人の割合が17市町中2番目に高い



経常収支比率が17市町中最も低い



糸島市の弱み

市民所得（人口一人当たり）が17市町中5番目に少ない



市内総生産額（就業者一人当たり）が17市町中2番目に少ない



財政力指数が17市町中2番目に低い



(9) 経済センサス等

【農業売り上げ比較】

福岡市と糸島市を比較すると、農林漁業の売上はかわらないものの、1事業所当たりの従業者数は糸島市が多く、従業者1人当たり売上は福岡市の方が高い。このことから、結果として、1人の所得が糸島市は低くなっている。

財政力指数を福岡市と比較すると、糸島市が低くなっており、他の要因も考慮しつつ、市独自で稼ぐ力が必要となっている。

地域	産業大分類	総数(経営組織) (注1)		売上(収入)金額(百万円)	1事業所当たり従業者数(人)	1事業所当たり売上(収入)金額(万円)	従業者1人当たり売上(収入)金額(万円)
		事業所数	従業者数(人)				
福岡県	0 A~R 全産業(S公務を除く)	194842	2091424	...	10.7
福岡県	1 A~B 農林漁業	628	7860	62689	12.5	10865	880
福岡市	0 A~R 全産業(S公務を除く)	64771	800195	...	12.4
福岡市	1 A~B 農林漁業	48	370	3910	7.7	10567	1294
宗像市	0 A~R 全産業(S公務を除く)	2473	23301	...	9.4
宗像市	1 A~B 農林漁業	22	287	2789	13	16406	1028
古賀市	0 A~R 全産業(S公務を除く)	1828	24098	...	13.2
古賀市	1 A~B 農林漁業	3	39	243	13	8113	624
糸島市	0 A~R 全産業(S公務を除く)	2762	23237	...	8.4
糸島市	1 A~B 農林漁業	36	609	3778	16.9	11449	647

資料:平成28年経済センサス 活動調査 確報集計(事業所に関する集計)

全市町村の主要財政指標							
団体コード	都道府県名	団体名	財政力指数	経常収支比率	実質公債費比率	将来負担比率	ラスパイレス指数
401307	福岡県	福岡市	0.89	92.5	11.7	135.5	102.7
402206	福岡県	宗像市	0.60	92.9	0.3	-	96.1
402231	福岡県	古賀市	0.68	95.0	5.3	-	94.5
402303	福岡県	糸島市	0.56	87.6	5.5	13.7	100.3

資料:平成29年総務省_全市町村の主要財政指標

3. 各種調査結果からの総括

各種調査結果からの反映に向けたマトリックス表

太枠・網掛けは意見が多い分野 は現状 は課題及び今後の方向性を示しています。

分野	子育て・教育	人口減少・コミュニティの維持・人材育成	自主防災・災害時支援対応	健康・福祉	情報発信・観光資源・第1次産業、交流等	観光連携、市内交通の充実等
市民アンケート	子育て環境に重要視している方が7割以上と高い 安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると思う方が、4割弱と低い 保育所などのサービス(保育料や延長保育、一時預かりなど)が充実していると思う方が3割弱と低い 学校教育の環境では、重要度が高く、満足度が低い 糸島市を一層魅力的なまちにするために、今後どの分野に力を入れるのが良いと思うかについて、「子育て・教育」が最も高くなっている	高齢者に対して、家庭や地域が手を差し伸べ、支え合っていると思う方は、5割弱 地域で、学校・家庭・地域・行政・警察が連携して取り組む活動に参加したことがない方が6割以上と高い ボランティアに活動に参加していない方が4割以上	防災・減災の環境に重要視している方が8割以上と高い 防犯・安全の環境に重要視している方が7割以上と高い	市民の皆さんの健康づくりの環境に満足している方が、半数以上	日ごろから、地産地消を意識し、糸島産の農水産物を積極的に購入している方が、7割と高い 農林水産業の環境に満足している方が、5割弱と高い 糸島市を一層魅力的なまちにするために、今後どの分野に力を入れるのが良いと思うかでは、「子育て・教育」「観光レクリエーション」「農林水産業」となっている	糸島市が好き、住みやすい、住み続けたと思う方が8割以上と高い 総合満足度は、平均6.73点で、前回(H29年度)調査の6.85点と比べて0.12ポイント減少 歩道やガードレールなどの交通安全施設がじゅうぶんに整備されていると思わない方が、4割以上と高い 公共交通の環境に満足していない方が、5割弱と高い 道路・交通ネットワークの環境に満足していない方が、半数以上と高い
中学生アンケート	子どもから大人までが住みやすいような設備が必要(市民が子育てをする。小さな子どもは高齢者からコミュニケーション力を学べる)	地元の食材を大事に育て、消費していくという食文化がある(豊かな自然と美味しい食材で地元住民だけでなく、市外の人、外国人とのつながりをもつことで、糸島市が活性化する) 高齢者の人たちが、交流できるようなカフェがほしい(月に1回イベントをしたりして、お年寄りから学生までどんな人でも利用しやすい交流の場)	外国人移住者が増えてきている(外国の方とも情報交換などを行い、市全体を巻き込んだ防犯活動につなげる。また英語にふれることでグローバルな社会にしていく) 大きな病院がない(大きな病院を建てることで、人も集まり、雇用が増え、災害時にも避難所にもできる) バリアフリーな社会の実現		使用していない農地がたくさんある(農地をレンタルし他県から移住してきてもらえる) 農業や漁業が多い(農業や漁業の体験の場を作ることで他県から来てもらえる) 名産品がたくさんある(花火大会などのイベントなど開催し、そこに名産品などを置いたり、糸島市を知ってもらう宣伝に力を入れる) 森林面積が市の総面積の45%もあるので、林業を発展させていく、仕組みと体制を整備したい 商業をもっと盛んにしたい	自然が豊か(大都市とは違う自然の良さを情報とし、世界にも発信する) 観光客の日帰りが多く滞在が少ない(学校の設備が良くなったので、学校も宿泊に使用し、調理室で糸島の食材を使って食べてもらい、名産品を買ってもらおう) 飲食店のメニューに外国語表記をつける(外国人観光客を増やすため環境を海外の方が過ごしやすいようなまちの整備) 最先端技術を導入(農作業をカバーするロボットや、山奥に住んでいる高齢者を支えるロボット)
ワークショップ 高校生未来会議 市民委員会	子どもが安心して通学できるように 子ども達が外で遊べる運動公園がない 公民館が集いの場となるような取り組み 子育てをしている親などの相談窓口 児童数の少ない学校を小・中・高と長い目で見ていける一貫校へと変える 幼児期から小・中・高校の教育環境を見直して、他の地域からも支持されるような教育モデルを作る 安心して子育てができるまち 中高校生が地元で実現したいことを応援する(人・モノ・カネ) 子どもの体験＝農・漁業(キッザニア糸島) 地域とともに子育て	働き手が福岡市へ流出 農業、林業、漁業、体験型のイベント(宿泊型) 若者の起業支援、空き家活用 人材育成、「糸島でお金が巡る」しかけ IT企業の誘致やベンチャー・ビジネスの起業で企業レベルの向上を図る 地域行事等のボランティア活動・公民館講座への参加(料理・趣味等) あごら等の施設を活用し、無料相談や無料セミナー等の開催 総合病院を糸島に。集約させたまちづくりを計画、コンパクトシティ 地域の集いの場として高齢者の孤独を防ぐ(子どもの遊び場・見守りの場として共用するとともに良い)。交流の場にも Wi-Fi環境を整えた無料のワーキングスペースをたくさん作る	糸島の心配は原発・地震。民生委員だけでは助けられない 隣の人の番地、家族構成、電話を知らない 地域活動に参加しないと、非常時に声がかけれない プライバシーと個人情報の扱い方 原発の避難訓練 避難訓練の充実 要支援者の避難訓練 行政と地域で協力して、消防団・自主防災組織等の人材を育てる 情報を正しく把握する 防災グッズを見直す 近所の体の不自由な人等に声をかける シニアクラブの防災組織化 防災・減災に関する行政のレベルUP	スポーツ施設や福祉施設の充実 福祉の充実 高齢者が自由に出かける場所が必要 高齢者が安全に住める施策 元気な高齢者をふやす。仕事をする 福祉が充実していると土地から離れる人も少ないし移住者も安心して移住してこられる 福祉関係の仕事につく事で就労の問題も解決 第一次産業に加え福祉も産業に 子供・高齢者が心配無く生活で出来る糸島を望む	宿泊施設が少ないので観光客が素戻りする 糸島ブランド品が多いが、全体の産物となっていない 文化財のアピール 糸島を含む学生との交流、糸島生との共同化、糸島の実績を活かした高校生レストラン 糸島オリジナルの商品の宣伝 観光マップの作成(1日周れる) 農家宿泊、農業体験(アグリツーリズム) 福岡 糸島 唐津まで安全に走れる自転車道の整備 第一次産品の第6次産業化(生産-加工-販売等)を実現 1次産業をコミュニティ単位で維持していく仕組み 大学とタイアップし糸島のブランド化 糸島市のウェブページ(観光)開発	買物難民(山間部・海岸部) 南北の道路が無い 交通の便が市内に比べると悪い 駐車場があまりなく、せまい(二見ヶ浦、芥屋の大門) バスの数をもっと増やす 移送サービスやコミュニティバスの充実 観光地以外でも必要な道路整備(特に歩者分離)を実施する 自転車事業・レンタル観光との連携 観光地へのアクセスの改善 住みたい町から定住へ 上下水道整備 ゴミ処理問題の解決
基礎調査	保護者や子どもたちの教育的ニーズは多様化してきており、よりきめ細かな対応が必要 少子高齢化社会に対応するため、ライフステージに応じて生じるこれらの様々な不安を社会全体の課題と認識し、支援や解決を図ることが求められる	高齢化は糸島市でも確実に進行しており、誰もが安心して生涯を過ごせる地域社会の条件を整えていくことが必要 再生産年齢の中心となる世代の転入を増進させる必要がある 若い世代をメインターゲットとする転入促進並びに子どもを産み育てやすい環境整備等、定住人口の確保(拡大)を図っていくことが求められる	近年、台風や予想し得ない局地的な集中豪雨、大規模な地震などにより、全国各地で被害が発生 東日本大震災では、役場・役所自体が被災したことにより、行政機能が維持できず、あらためて、地域コミュニティによる自助・互助及び正確な情報周知の重要性が再認識 災害時には地域住民が協力し合って救助活動を行うことが重要	高齢者や障がいのある人にとっても住みやすい住宅の維持管理を行い、市民の住環境の向上を図る必要がある 医療体制のさらなる充実を図りつつ、市民一人ひとりの健康づくりや介護予防を進めていくことが、超高齢社会の観点からも極めて重要 これからの時代のコミュニティ創出を図っていくことは、地域包括ケアという地域のあり方へのアプローチとしても、今後ますます重要	第1次産業の高齢化や農家数の減少 地域経済循環率は、他地域から流入する所得に対する依存度が高くなっている。 支出流入率は、マイナスの値となっているため、地域外への流出が高くなっている。 農業経営者の支援や新規就農者育成など、農業の担い手育成を図る施策をより一層推進する必要がある。 様々な魅力をひとつでも多く発見・創出・発信し続けることによって、市内各地域・コミュニティのらしさ・アイデンティティを確立すること 糸島市のもつ多様性・創造性・独自性を拡大・強化していくことが重要	豊かな自然や歴史的観光資源を活用し、糸島市を訪れる観光客を誘致する 観光客が市内を回遊し、市内の消費を促すようなより効果的な施策を展開することが重要 外部(観光客・交流人口から他市町村定住者まで)の視点から、魅力についても創出を図り、それを広くPRしていくことが重要

分野	子育て・教育	人口減少・コミュニティの維持・人材育成	自主防災・災害時支援対応	健康・福祉	情報発信・観光資源・第1次産業、交流等	観光連携、市内交通の充実等
施策評価報告書	<p>共働き世帯、ひとり親世帯の増加に加え、新規住宅開発等により子どもの人口が増加 学力調査では全国・県を上回っているが、学校外での学習習慣に個人差があることから、家庭や地域と一緒に学習習慣の定着に向けた取り組みが必要 地域での青バト活動や見守り活動により少年犯罪が減少している。地域全体で取り組んでいると実感している市民の割合も増加している 子育て世代の転入増や国による子育て政策の拡充を見据えて、施策を遂行 コミュニティスクール事業の充実 学校給食の地産地消は向上しているが、担い手の育成や高齢化に向けた食育推進事業の充実が必要</p>	<p>留学生とともに進める国際交流、外国人が安心して生活できる環境整備 市民の国際化意識の醸成を図る取組を実施 生涯学習情報誌の発行や出前講座の実施により、市民の学びの機会を支援 研修を実施する等スポーツ推進委員のスキル向上を図り、ニュースポーツ紹介や実技指導を行っている 20～40代女性を対象とした、スポーツ体験講座を実施 住みよい地域づくりのため、自治会加入率の向上 地域コミュニティの醸成のため、事業を推進市全体で国際交流についての理解・意識の向上、留学生と地域や学校等との交流、民間の国際交流活性化等に取り組む必要がある 生涯学習のための公民館の修繕・改修</p>	<p>毎年自主防災組織において防災講座・訓練等を実施 青バト巡回活動や、子ども見守り活動など、地域が主体となった取り組みが実施されている 防犯灯の設置も計画的に実施 地域格差による防災訓練の実施が行われていない行政区への支援、訓練のマナー化の解消に向け、訓練マニュアル等の作成が必要 ハードとソフト双方の整備を進め、更に地域防災力を強化 大規模災害に備えた受援体制、避難所運営体制の確立など、防災体制の整備が必要 地域を主体として、学校や警察、行政が連携をして取り組みを強化していく必要がある</p>	<p>有償ボランティアによる高齢者の閉じこもり予防及び低栄養改善の取り組みが定着(いとゴン食堂など) 地域包括ケアシステムが構築されていないため、高齢者を地域で見守り、支え合う仕組みができていない 市民の健康管理体制の充実を図り、生活習慣病の早期発見、予防、早期治療が必要 高齢者の増加に伴い、高齢者の社会参加や就労支援が必要 地域包括センターを中心に地域包括ケアシステムの取り組みを充実させる必要がある</p>	<p>食品産業ラクター協議会に連携が強化され、新商品の開発やブランド化等が加速 商工業者と農林漁業者との有機的な連携による新商品の開発により、農林水産物の高付加価値化により糸島ブランドの構築に寄与できた 地域資源を生かした体験型観光の推進により、体験観光事業参加者数は増加 観光ボランティアは高齢化に伴い減少 多様化する観光客のニーズや情報入手手段に対応するため、あらゆる媒体を活用した観光情報の発信を行っている 福岡県と連携し、糸島リサーチパークへ半導体関連の民間企業の研究開発施設を誘致できた 新規就農や新たな担い手などの育成 水産物のPR活動や販路拡大をはじめとする販売戦略の構築 観光協会、事業者、地域が連携し、一体となって観光振興に取り組む「糸島市版DMO」の設立 外国人観光客増加に伴う受け入れ体制の整備</p>	<p>伊都の社行政区では居住人口が増加、農山漁村集落においては定住人口確保が困難 子どもの遊び場、運動の場など利用しやすい広場・公園の整備が求められている 農山漁村集落の移住者確保への取り組みが必要 公園を整備していく方針はあるが、維持管理・歳出の負担増など課題に対応 市道の整備、国道・県道と市道を機能的に結ぶ整備が必要 バイパスと広域幹線道路と九州大学を結ぶ道路ネットワークの整備が必要 路線バス、コミュニティバスのさらなる充実 渡船利用者を増加させるため、情報発信により、観光客を取り込む 交通安全施設の整備、維持及びカーブミラー点検については、継続して実施</p>
糸島市統計白書	<p>【生活環境】の視点、持ち家が高いことから糸島市に住みやすい環境であることが伺える。一方、空き家が多いことから人口の増減が関係していることが考えられる。 保育所利用率が高いことから、若い夫婦の共働き世帯が多いことが考えられ、都市公園等面積が少ないため、子育て世代にとっての公園の整備や、汚水処理人口普及が低いなど、生活環境の整備が必要</p>	<p>【人口・世帯、労働力】の視点、少子高齢化が進んでおり、従属人口指数が高いことから、生産年齢人口が少ないが、労働力比率が高いことから高齢者や女性の働く人口が多い</p>			<p>産業の視点では、認定農業者の割合、農業産出額が高く、第1産業が充実しているものの、製造品出荷額、年間商品販売額が低いことから、製造品の出荷や商品の販売力が弱い。 観光の視点では、観光入込客が多いことから、市内の消費を促す農業体験や、糸島の資源をつかった商品化など必要 財政状況の視点、市内で就業している人の割合が平成22年度から増加し、17市町の中でも高く、市内での就業場所が充実し、働きやすい環境であることが伺える。 ○経常収支比率が低い一方、財政力指数は低い値となっている。 ○市民所得、市内総生産額が少ないことから、市内の労働生産性が低い。 財政力指数では、全国、福岡県を上回るものの、17市町の中では低くなっており、他の要因も考慮しつつ、市独自で稼ぐ力が必要となっている</p>	

課題整理・分析結果について

日本社会が急激な人口減少に直面している中、人口増加傾向にある状況でまちづくりを進められる本市においては、独自の展開でまちづくりを進めていく必要があります。

第2次長期総合計画策定において実施したアンケート調査結果や高校生・市民ワークショップでは、これからのまちづくりでは概ね満足度が高いまちの現状に「安全・安心」や「快適性」が求められおり、市民の潜在ニーズとして、「量より質」の充実を望んでいる傾向がうかがえます。

一方、各種統計データからは、認定農業者の割合や農業産出額が高く、第1産業基盤が充実しているものの、製造品出荷額、年間商品販売額が低いことから、製造品の出荷や商品の販売力が弱い傾向にあるなど、観光入込客数等は高い水準にある中で、今後、独自で稼げる力を養うことが必要と考えられます。

特に第1次産業については、糸島ブランドの強化にもつながる内容であり、高校生・市民ワークショップからも第1次産業の活性化や糸農高校との連携、農業レストランなど、具体的な提案も出ていることから、さらなるブランド（強み）の強化を図る必要があります。

これらのことから、今後のまちづくりにおいては、ブランド力を生かしながら、稼げるまちづくりを進める、将来を見据えた「攻め」の視点、そして、安全・安心や快適性を追求するなど、いつまでも住み続けたい移住・定住志向の高いまちづくりを目指す、まちづくりと現状の問題への対応に重きを置いた「守り」の視点によるまちづくりを展開するとともに、持続可能なまちづくりに向け、自主性・自立性の高いまちづくりを進めていく必要があると考えます。

そのため、今回の第2次長期総合計画においては、まちづくりの基本方針（戦略）として、「稼げる糸島づくり」でブランド力のさらなる強化（攻めの視点）、「住みたい・住み続けたい糸島づくり」で移住・定住促進（守りの視点）そして、「自主・自立の糸島づくり」（持続可能な視点）を掲げ、『まちづくりの基本目標』『課題克服プロジェクト』『戦略的な行政経営戦略』を展開していく必要があります。

